研究主題「地域の伝統工芸～社会と人の心を結ぶ学習をめざして」

門真市立門真小学校　吉水拓真

1. 研究に当たって　主題設定の理由

(1)問題意識

「わたし、もっと自信を持っていいんだ！」学びをまとめる段階で出てきた、ある児童の言葉だ。

2019 年に日本財団が行った18 歳意識調査「第 20 回 社会や国に対する意識調査」の報告書の中の【自身について】では、全項目において他国より大幅に低い数値で、日本の若者の社会における意識の低さが垣間見えた。特に、「自分は責任ある社会の一員だと思う」「自分の国に解決したい社会問題がある」が5割を切り、中でも「自分で国や社会を変えられると思う」の項目が2割にも満たないという自己有用感の乏しさが目立つ。これらのアンケート状況から、小学校教育における社会への問題意識、自分たちが何か働きかけることによる社会変革への期待感、体験を通した知識・技能習得とともに自己有用感を高めることをテーマに授業構想を練ることにした。

(2)本校の児童の様子

本校は、大阪府門真市にあるモノレールと京阪電車、大きな国道が重なる Panasonic を代表とする物づくり地域の学校である。4年生2クラス74名。社会科を私が担当している。本学年児童は、調べ学習や ICT 機器の活用、新しい事への興味関心が高い子がいる一方で、学習に意欲的に取り組めない子や、友だち関係がうまく持てず協働作業に難しい反応を示す子も少なからずいる。校内で実施している4月のアンケート調査では、「自分にはよいところがある」が78%、自分を否定的にとらえている子が22%(16人)いることが分かった。冒頭の言葉を発した児童も、力はあるが自分を肯定的に受け止めておらず、表情にも行動にも自信のなさがうかがえ、日本財団の調査結果にも通じるところがあると感じた。

(3)主題設定

すぐれた教材であるためには、子どもの興味を引くもの(具体性)であり、しかも、それに取り組むことで自然と教えたい内容が身につくもの(典型性)であることが求められる(二杉,1994)。本学年児童は、身近な包丁という題材であるが、見たことのない大阪の伝統工芸品である「堺打刃物」に興味を持ち、進んで調査活動をするだろう。そして、味岡さんという伝統工芸品を守る職人さんがいることを知り、味岡さんの情熱や志、精神に触れることで、自分の在り方について見つめ直すきっかけになると考えた。また、学び方に関しては、一方的な知識伝達的な学習形態を採らず、問いを立て学習計画を練ったり、味岡さんに出逢う過程をも、児童自らつかみ取る探究活動型にした。そうるることで、社会科の領域として地域の誇れる文化「堺打刃物」という伝統工芸品について、自分の生活と刃物とのつながりを感じ、伝統文化における問題点についても理解を深め、さらには自分たちのできることも考えて社会に対して主体的に行動していける力をつけてほしいと願いを持った。

2. 研究の構想

(1)伝統工芸品「堺打刃物」について【※資料①】

○本単元は、小学校社会科指導要領4年(5)のア・イの内容をもとに設定した。

○堺打刃物は、一般の包丁と違って、伝統工芸士と呼ばれる職人さんの高度な技術によって、非常に手間をかけて手作りで作られていて、質も高く、価値も高い。用途によって種類もたくさんある。

○味岡さんは、刃物製造の刃付け士として平成 19 年度認定マイスター(伝統工芸士)に認定されている。門真の副読本「わたしたちのかどま」にも詳しく取り上げられており、弟子の育成、高校生への授業、東北支援、町おこしとしての地場産業など、信念をもって精力的に活動されている。子どもたちへも「気配り・心配り」「感謝」「命をつなぐ」など、熱い思いを伝えたいと願っておられる。

(2)本単元の概要

○教科:社会科、総合的な学習の時間

○単元名:「特色ある地域のくらし」

○単元目標:

①社会と自分たちがつながり合っている事、社会における問題点に気付き、社会への関心をもつ。

②学びのコントローラーを握る感覚をもつ(=主体的な学びの姿勢を育む)。

③作り手である味岡さんの思いを知ることで、地域貢献や思いやり、地域の伝統に対する誇りや愛着を感じ、物づくりの面白さ、すばらしさを学び、未来の担い手である自分を高めていこうとする。

特に、②③において、児童の自分に対する有用感、捉え方を肯定的にしたい。

(3)単元目標に迫る3つの手だて

本研究では、

①生活と伝統をつなぐ導入の工夫

②味岡さんを自分たちの力で学校に来てもらう段取りの工夫

③味岡さんの人間性、伝統に対する思いにふれる工夫

という3つの手だてを取ることで、子どもたちに上記の 3 つの力を育むことを目的としている。

①生活と伝統をつなぐ導入の工夫

単元の導入では、家庭科室にある一般的な包丁と事前に手に入れた堺打刃物で、野菜を 切ってみようという「包丁の切れ味比べ」をもとに、一般の包丁と堺打刃物の違いは何か、なぜ堺なのか等、児童から疑問や興味を抱きやすい活動を行う。そして、自宅ではどんな包丁を使っているか調査活動をしたうえで、「なぜ素晴らしいはずの包丁が身近に使われていないのか?」などの疑問や興味をいかして、包丁の種類や大阪堺の刃物の歴史、作り方などの調べる活動につなげたい。

②味岡さんを自分たちの力で学校に来てもらう段取りの工夫

学習に関わっての一番のポイントは、やはり味岡さんとの出会い。副読本の中の人に自分たちで連絡したり、場を準備したり、内容を考えたり、当日の進行やお礼に至るまで、主体的な学びの創出として位置付けたい。

③味岡さんの人間性、伝統に対する思いにふれる工夫

味岡さんの「職人としての技能」や「伝統を受け継ぐ責任」(社会科的な学び)に加えて、「人や社会に貢献したい」という思い、「思いやりの心」に支えられていること(道徳・人間的な学び)に触れさせたい。きっと児童は、作り手である味岡さんの思いを知ることで、地域の伝統に対する誇りや愛着を感じると共に、そうした他者貢献や思いやりの精神を自分と重ね合わせながら考えるだろう。ものづくりの面白さ、すばらしさを学び、未来の担い手である自分を高めていこうとする児童もいるだろう。そのために、事前に味岡さんにそうした部分を伝えてほしいこと、限られた貴重な時間の中で質問を精選し、パネルトークの形で伝えてもらうことにする。

3. 授業実践(全13時間)

(1)単元の導入と学習計画(2時間)

(2)包丁の特徴「堺打ち刃物は、ふつうの包丁と何が違うのか?」(1時間)

(3)歴史「堺打刃物は、なぜ堺市で生まれ、どのように受け継がれていったのか?」(1時間)

(4)作り方・作る人「堺打ち刃物は、どんな人が、どのような作り方で、どんな思いで作っているのか?」(1時間)

(5)味岡さん「味岡さんはどんな人で、何をしているのか?」(1時間)

いよいよキーパーソンの味岡さんについて調べた。中には、私が買ってきた堺打刃物の柄の部分の刻印を見て、事前に味岡さんについて調べている児童もいた。副読本から「研ぎの伝統工芸士」であること、高校の先生でもあること、被災地ボランティアや弟子の育成、小学校の出前授業もしていることを知った児童は、「なぜ、こんなにたくさんの活動をしているの?」という疑問を持った。さらに、私が副読本の取材で

味岡さんに会って話したことを伝えると、「私たちも会ってみたい！」「話を聞いてみたい！」「包丁の研いでいる所を実際に見てみたい！」などの関心が湧いてきた。

(6)プロジェクトK(校長先生にお願い→味岡さんに手紙を書こう→門小で学ぼう！)(3時間)【※資料②】

私の話を元に期待を寄せる児童であったが、すべてこちらでお膳立てするのでは、児童の達成感や主体的な学びにつながらないと考え、「そんなに会いたいなら、手紙を書いて来てもらえるか聞いてみたら？」と水を向けてみた。そこから何人かの代表で手紙を書くことになり(実際にはFAX)、やりとりを始めた。返事は、みんなが伝統産業について熱意をもって学習していることが伝わり、快諾してもらえた。それを受けて、「校長先生に許可がいる。」「どんな準備がいるか？」「当日の時程」「どんなことを聞きたいか？」「実際に家の包丁を研いでもらいたい。」など、【プロジェクトK】～伝統工芸士味岡さんに門小に来てもらい学ぼう計画～がスタートした。まずは、学校長へのお願いと説得。多数の立候補者の中から説得力のある説明ができる児童が選ばれ、交渉にいく。見事、「条件付き(みんなの学びを整理し、学校長と味岡さんに伝える事)で、OK！」と返事をもらい、みんなに伝えると、教室は大歓声になった。これが教師主導のお膳立てで進められていたら、こうはいかなかっただろう。また、味岡さんへの手紙も、代表の児童が言葉を選んで書き上げた。こちらも、味岡さんからすぐに返事(FAX)が来た。「みなさんが熱意をもって学習されていることが伝わってきました。ぜひ、行かせてもらいます。」とのお返事。これまた、児童は「やったー！」「よっしゃー！」と飛び上がって大喜びだった。

(7)プロジェクトK当日(4時間)【※資料③写真】

ついに本校に伝統工芸士の味岡さんがやってくる。児童は、今か今かとワクワクした心境で、歓迎のポスターを手に拍手で出迎えた。味岡さんと、お弟子さん3人(うちお一人も伝統工芸士)が来ていただけた。デモンストレーションでは、火花を散らせて研ぐ味岡さんの姿を真剣な眼差しと、時折上がる歓声の中、本物の研ぎの技術を見せていただいた。研いだ後の包丁は、キラキラ光り輝き、1枚の紙に刃を通すと、はらりと二つに割れた。これぞ、伝統の技。

堺打刃物の歴史や知識を味岡さん本人から説明いただき、実際に研ぎ方を体験させてもらった。プロの工芸士さんの高度な技術を目の当たりにした児童の表情は、非常に充実したものだった。工芸士さんが研いだ刃物と、自分たちで研いだ刃物では、切れ味が全くちがって、研ぎの難しさも体感できた。

パネルトークでは、伝統について、本やインターネットの情報だけでは分からないことを直接聞かせてもらえた。特に、「この仕事は、お金儲けでやっていないこと。」「人に喜んでもらいたいという思いが強いこと。」「この伝統技術をどうやって受け継いでいくか。」というお話に児童は熱心に耳を傾けていた。児童のノートは、観察、体験、インタビュー、感じたことなどで、何ページもびっしり文字が埋まっていた。

(8)学びを整理する(3時間)【※資料④板書・写真】

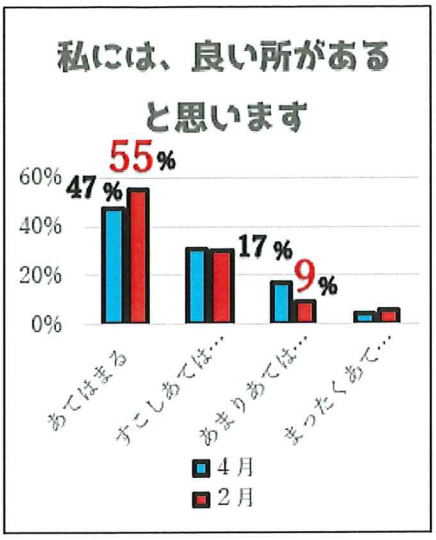
学習では、児童の学びを社会科的な学びと道徳・人間的な学びの2つの側面に分けて整理した。資料の左半分が社会科的な学び、右半分が道徳・人間的な学びとした。ベン図にすることで、両面の共通点が浮かび、「伝統を守るため」「人のため」「一生懸命さ」などの言葉が出た。その学びを元に、味岡さんに自分たちの学びをまとめ、プレゼン動画として送ろうということになった。子どもの学びを以下にまとまた。

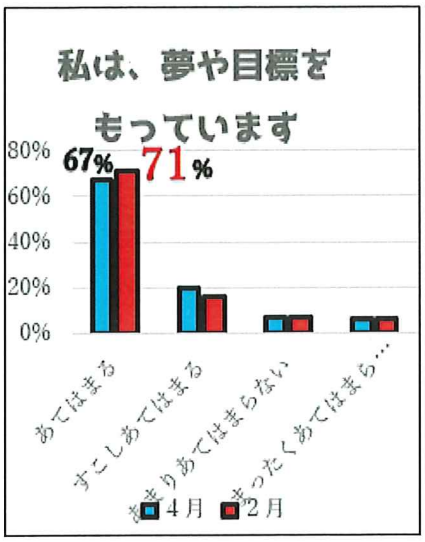
・堺打刃物の種類、切れ味、研ぎ方、愛情を込め、何度も磨き上げ、苦労を重ねて作られていること。
・手作りだからこその良さ、ものづくりの楽しさ、私たちの生活につながっていることを知った。
・人のために仕事をするすばらしさ、かっこよさ、やさしさ、続けること、あきらめない気持ちの大切さ。
・堺打刃物は、人にも環境にもやさしいこと。
・失敗しても悪い所を考えて次に生かすことが大事だと学んだ。

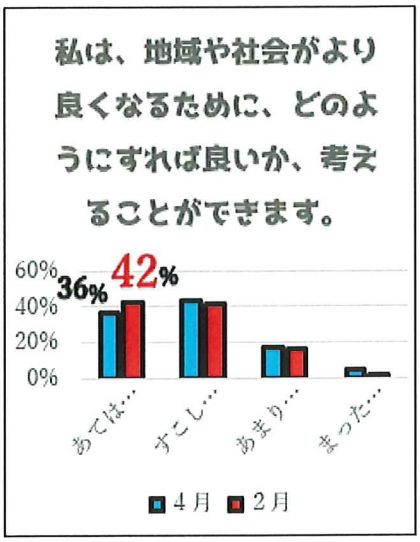
児童は、研ぎ師のすごさ、伝統工芸品の価値だけでなく、味岡さんという人から学んでいた。そして、これまでのプロジェクト学習を自分たちの力で進めてきたからこそ、学びの成果を自分自身に向ける児童も多くいた。

4. 成果と課題

校内のアンケート結果【※資料⑤グラフ】を見てみる。







これらの結果は、一概に本研究の成果と結び付けることはできないが、3つのグラフからも分かるように、子どもの意識や心の高まりが見られる。特に、自己有用感は一朝一夕に高まることが難しい一方で、自分には良い所があると認められる児童が増えていることは非常に喜ばしい。また、「地域や社会が良くなるために、どのようにすれば良いか、考えることができる」項目で若干数肯定的に見られる子が増えたことも嬉しい結果である。

加えて、子どものプレゼンの学びにもたくさん出ていたように、「味岡さんのようにやさしい人になりたい」「人の喜ぶ仕事をしたい」「努力、あきらめないことの大切さがわかった」「堺打刃物のような価値の高いものが自分の生活につながっていることを分かった」「失敗を次に生かす大切さがわかった」のような道徳的価値に関する言葉が多く見られたことも、本研究の成果とも言えるだろう。冒頭にあげた子をはじめ、自分を見つめ直し、利他の心、努力の価値、物づくりの楽しさに気付けた学びになったと考える。

ただ、課題としては、事前の学習アンケートをより具体的にとり、その時期や成果と課題をふり返るためのアンケート項目の精査、学習中における児童のつぶやきをより詳細に控えておくことが足りなかった。また、一人ひとりの児童への明確な目標とそれに対する働きかけ、*一人ひとりカルテを取り、授業を軸に明確な位置づけを行う(上田,1985)*ことで、より個の成長が見えたのではと思っている。

5. おわりに

今回、初の研究論文を書くにあたって、研究の見通しや研究論文にあたり、何冊も本を読み、足で教材研究をし、実際に人と会うことで何倍もの学びが深まる経験ができた。多くの教員仲間と、堺打刃物の伝統工芸士さんと、そして児童と共に、児童自らが学びを作っていくといった好奇心と主体性を働かせ学ぶスタイルに熱を帯びていった。一つの授業にこだわるのではなく、長い目で単元を見ること、そして一人ひとりの学びをまっすぐ見つめ、そこに注力する重要性を認識できたこと、何より味岡さんという人間とつながれたことで、自身の生き方、考え方も見つめ直す機会をいただいたことは、私にとって大きな学びとなった。今後も、地域の特性、社会の時流、子どもの特徴や様子を見取りながら、より価値の高い学びを創造していけるよう、自身も高みをめざし、問いを立てつづけ、研鑽していきたい。

論文資料（吉水）

資料①　教材構造フレームワーク

＜特色ある地域とくらし（堺打刃物）＞　教材構造フレームワーク

教材	包丁の種類や特徴	堺打刃物の歴史	作り方	作り手の思いや願い
時間的な視点	問:これまでどんな包丁が使われてきたの？ ・和包丁(片刃)→和食の調理 ・洋包丁(両刃)→洋食の調理 (昔)和食→(近年)洋食多い→(10年前)和食ブーム ・食文化の変化	問:どうやって刃物が作られるようになったの？ ・起源は(3-7 世紀古墳時代)仁徳天皇陵を作る道具(鉄・鋼)の製造のための鍛鉄技術(各地から技師を集めた) ・(平安時代末期)生活道具などの製造 ・(室町時代)南蛮貿易→たばこ輸入→たばこ包丁 ・(1543年)ポルトガルより鉄砲伝来→鉄砲製造 ・織田・徳川が認める→『堺極(さかいきわめ)』として価値づけ ・(明治時代)西洋から自転車→修理・発展→自転車産業(シマノ) ・堺打刃物・・・600年の歴史	問:堺打刃物は、どのように作られているのか？ 1.刃金(鋼)付け 2.整形 3.なまし 4. 荒たたき 5.裁ち廻し(たちまわし) 6.摺り回し(すりまわし) 7.泥塗り 8.焼き入れ・焼き戻し 9.刃付け(研ぎ) 10. 銘切り 11.柄付け	問:職人さんはどのような思いで作っているのか ・後継者(マイスター制度)　・弟子(育成道場) ・工科高校 ・世の中の課題の変化 ・人々の願い・ほこり ・様々な苦心や努力 ・和食ブーム(ユネスコ文化遺産)到来→和包丁の価値→外国から大量注文→生産が追い付かない ・困っていること ▲時代の変化・・・使う人が減った/人口が減った/安いものが増えた/包丁を使わない食事/職人の高齢化/芸術品としての価値⇔道具としての日用品
空間的な視点	問: 家でもよく使われているのかな？ 問:家で使ってないけど、どんな人が使っているの？ ・日本刀物六大生産地の1つ (包丁:大阪府堺市・岐阜県関市) (包丁と鎌:福井県越前市) (金物:新潟県三条市・兵庫県三木市) (農業・林業用刀物:高知県土佐市) ・プロの料理人 90%近い国内シェア	問:なぜ堺市が有名？(位置・地形・自然環境・交通) ・堺市…摂津・河内・和泉の境目から(さかい) ・石川(加賀)より職人が移住 ・貿易都市・・・堺港(南蛮貿易など世界と貿易で栄える＝南蛮の陶磁器が大量に出土)海と陸の中継地→経済の中心 ・豪商人 ・堺県と呼ばれるほど栄える→環濠都市(3方を堺で守る) ・仁徳天皇陵/新大和川 ・銅国時代に独自の文化が栄え、特色を考え、表現する(茶の湯/能楽/達歌) ・地域の発展 問:門真市と堺市とはどう違うの？似ている所は？　問:なぜ門真市には伝統工芸品が少ないの？ ・関連付け　門真市との比較(○似ている所・▲ちがい) ○交通の要所　○多様性　○歴史的建造物の有無 ▲海に面していない　▲歴史の交差点　▲土地の様子		問:味岡さんはなぜこんなにもたくさん活動しているの？ ・外国の人 ・国際交流 ・イベント ・観光としての堺市 ・町おこし ・地域貢献
相互関係的な視点(法、政治、経済など)	問:普通の包丁とどういう違いがあるの？ 問:なぜ、そんなに高いの？ ・和包丁の特徴 ◎切れ味/耐久性/美しさ/素材の旨味/風味/環境にも優しい/食材から刃物が離れやすい/使い分け ▲お手入れ(メンテナンス)の手間/高価 ・人々の協力 ・産業の発展 ・工夫・・・素材に合わせて使い分け 柳刃包丁(刺身)/薄刃包丁(野菜)/出刃包丁(魚・肉) ・堺打刃物＝伝統的工芸品(マーク)【堺極】に認定 ・和ばさみ(日本で唯一)	問:職人さん以外にどんな人が伝統工芸品を守っているの？ ・人々の協力関係 ・人々の活動 ・鉄・鋼→刀・鉄砲→たばこ→包丁 【伝統工芸の定義】 ①日常生活で使われるものを作っている ②工程の多くが手作業で行われている ③高度な技術を必要とする ④長く受け継がれてきた歴史がある(100 年以上) 以上の4つを満たしていること	問:刃物作りは、どうやって協力して作られ売られているの？ ・【鍛冶】　→問屋 →【研ぎ(刃付け)】 →問屋【柄つけ】 →売る 分業体制 ・伝統工芸士	問:味岡さんはなぜこんなにもたくさん活動しているの？ ・助け合い ・被災地への支援 ・「芸術品」としてでなく、「道具」として価値 ・マイスター制度 ・高校での授業(自信を)→弟子につながる ・優れた技術を伝承 ・町おこし ・鍛冶師(1)に対して研ぎ師(2・3)の割合が必要
方法	【堺打刃物の独自性を入口とし、その歴史、種類、工法、職人さんの思い(包丁づくりを通して、地域や人間づくりを期している)にふれ、地域が発展してきたことが分かる】 (つかむ・調べる) 包丁比べ　・包丁の種類調査　・堺という都市の歴史的背景　・打刃物の作り方　・作り手の思い　・ (調べる手段)　自宅での聞き取り、実験、インタビュー、電話、手紙、本、ネットなどでの調査活動 (いかす)　　スライド、チラシ、ポスター、新聞、ビデオなどを媒介として、整理する、まとめる、伝える、発表する活動			
単元の最後に、何をしたい、身につけたいか	○堺打刃物という伝統工芸品が受け継がれてきたのは、堺市の地理的特徴(交通の要所)や歴史的背景(古墳づくり・鉄砲づくり)が関係している。 ○堺打刃物は、一般の包丁と違って、伝統工芸士と呼ばれる職人さんの高度な技術によって、非常に手間をかけて手作りで作られていて、質も高く、価値も高い。用途によって種類もたくさんある。 ○作り手である味岡さんの思いを知ることで、地域貢献や思いやり、地域の伝統に対する誇りや愛着を感じ、自分に活かせることを考える。 ○ものづくりの面白さ、すばらしさを学び、未来の担い手である自分を高めていこうとする。			

資料②　お願い・お手紙・資料

学校長にお願いに行く児童

学校長を説得する児童

味岡さんへのお願いの手紙

味岡さんへ

門真市立門真小学校　４年２組の坂本玲です。
突然のお手紙失礼いたします。
私達は、社会の授業で「堺打刃物」について学びました。
私は、堺打刃物の作り方には、いろんな工夫がされているんだなあ。と思いました。
そして、ぜひ門真小学校に来てほしい、本場の技や話を直接見たい、聞きたい、会いたい！
ということになりました。
なので、門真小学校に来てくれませんか？
学びを深めたい。という気持ちで待っているのでよろしくおねがいします。

味岡さんへ

門真小学校の東野です。
今日はお願いがあります。
私たちは、堺打刃物の勉強をしています。
先生が「みんなが一生けんめい頼んだら、味岡さんが来るかもしれません！」と言ったらみんながとても大喜びしていましたw
私は「こんなに忙しいのに大丈夫なのかな？」と思いました。
味岡さん、本当に門真小学校に、来てもらえませんか？
それとこんなにも包丁を大切に作ってくれてありがとうございます。
私達も何か困っていることがあれば協力するのでなんでも言ってください！
私達もできるかぎり堺打刃物を使ってほしいな～と思っています。
もし出来たらの事なんですけど味岡さんに教室の中で何か切ってほしいな～と私達は思っているので出来ればやってほしいです！

だから、できる限り最後まで堺打刃物を作り続けてほしいです。

プロジェクトＫ（門小）の概要

プロジェクトK
PROJECT K
小さな挑戦者たち

～伝統工芸士味岡さんに門小へ来てもらい学ぼう計画～

◆目的
①本場の堺打刃物を作る伝統工芸士の方の技を直接見たり、研ぎ体験をすることで、伝統工芸の技術や堺打刃物の価値を実感する。
②大阪でも希少な堺打刃物を受け継いできた味岡さんのお話を聞くことで、その人柄や思いにふれる。

◆２月２日（木）の予定

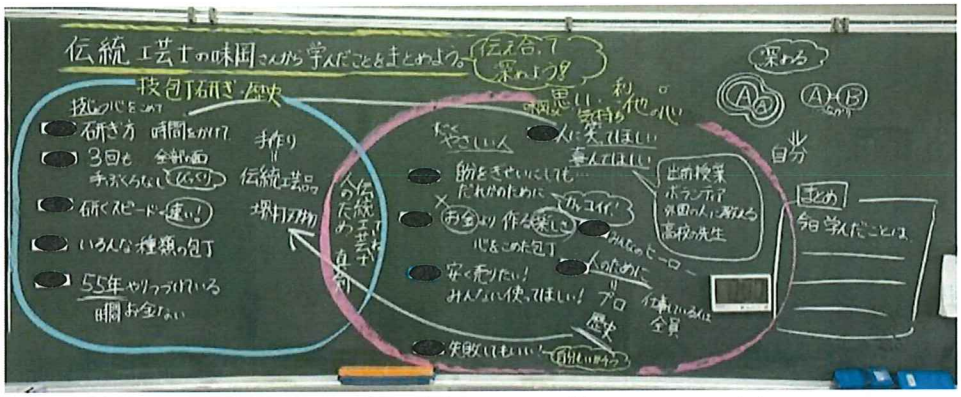
９：３０　お話＆研ぎのデモンストレーション（中庭）
（３０分）
１０：００　５分休憩
１０：０５　２組研ぎ体験（理科室）
（３０分）
１０：３５　５分休憩
１０：４０　１組研ぎ体験（理科室）
（３０分）
１１：１０　１０分休憩
１１：２０　パネルトーク　質問タイム（プレイホール）
（６０分）
１２：２０　終了

資料③　プロジェクトＫ当日写真

味岡さんの研ぎデモンストレーション　堺打ち刃物説明　　ホンモノから学ぶ研ぎ体験　工芸士さんにインタビュー

資料④　学びの整理（板書）（写真）

伝統工芸の技と心を学ぶ学習板書



単元の学びのアウトプットデイ（味岡さんに送る DVD より）

資料⑤　校内アンケート４月２月比較グラフ

④私には、良いところが　あると思います。		
	4月	2月
あてはまる	47%	55%
すこしあてはまる	31%	30%
あまりあてはまらない	17%	9%
まったくあてはまらない	4%	6%

⑤私は、夢や　目標を　もっています。		
	4月	2月
あてはまる	67%	71%
すこしあてはまる	20%	16%
あまりあてはまらない	7%	7%
まったくあてはまらない	6%	6%

⑦私は、地域や　社会が　より良くなるために、どのようにすれば良いかを　考えることができます。		
	4月	2月
あてはまる	36%	42%
すこしあてはまる	43%	41%
あまりあてはまらない	17%	16%
まったくあてはまらない	4%	1%